

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（令和3年1月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～4）

25日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、昭和4年火口の状況に特段の変化は認められませんでした。

山頂に設置した監視カメラによる観測では、昭和4年火口のごく弱い噴気が確認された日がありました。噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図5）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図6）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています。

今回の火山活動解説資料（令和3年2月分）は令和3年3月8日に発表する予定です。

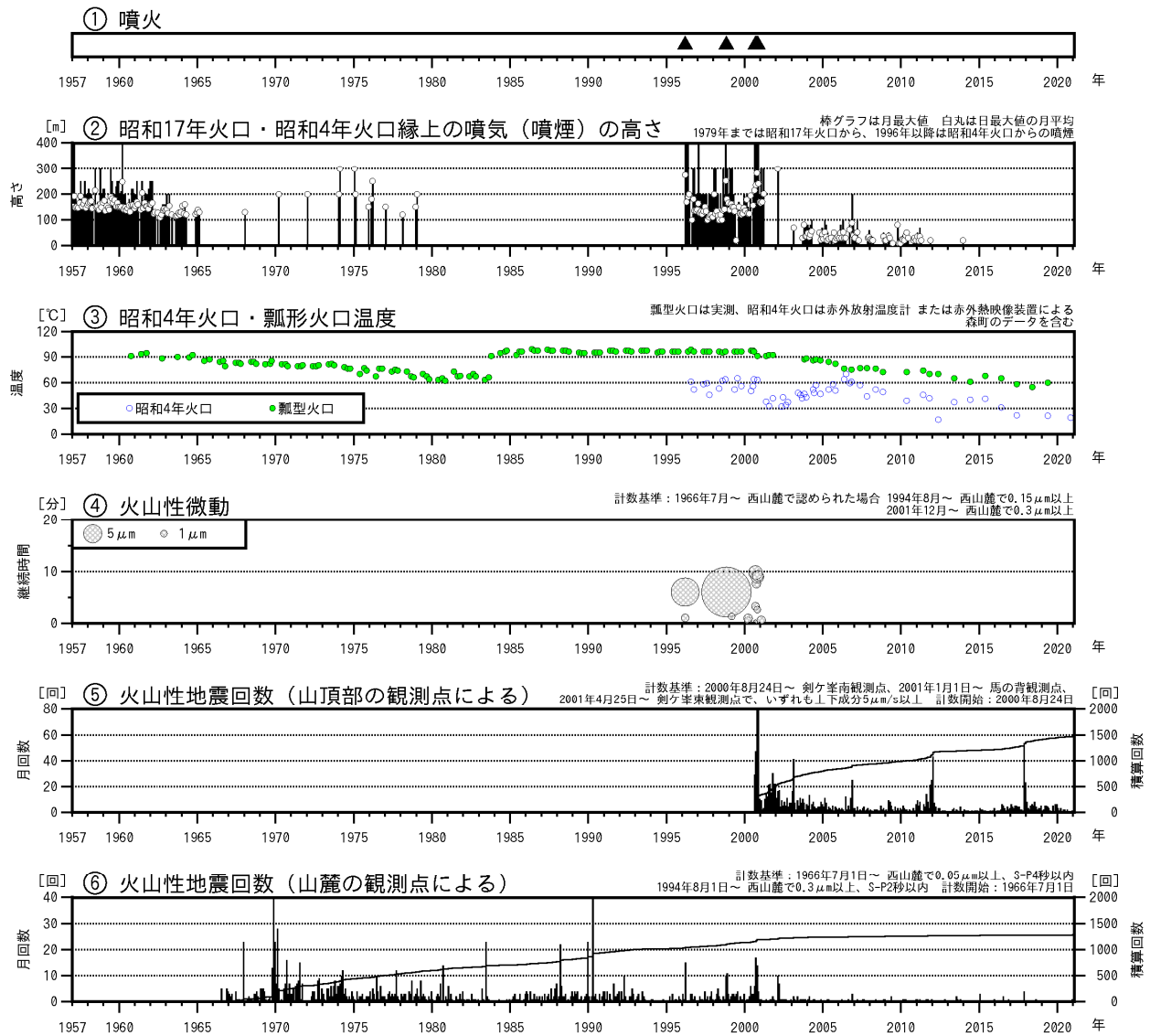


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2021年1月）



図2 北海道駒ヶ岳 西南西側から見た火口周辺の状況（1月24日、剣ヶ峯監視カメラによる）

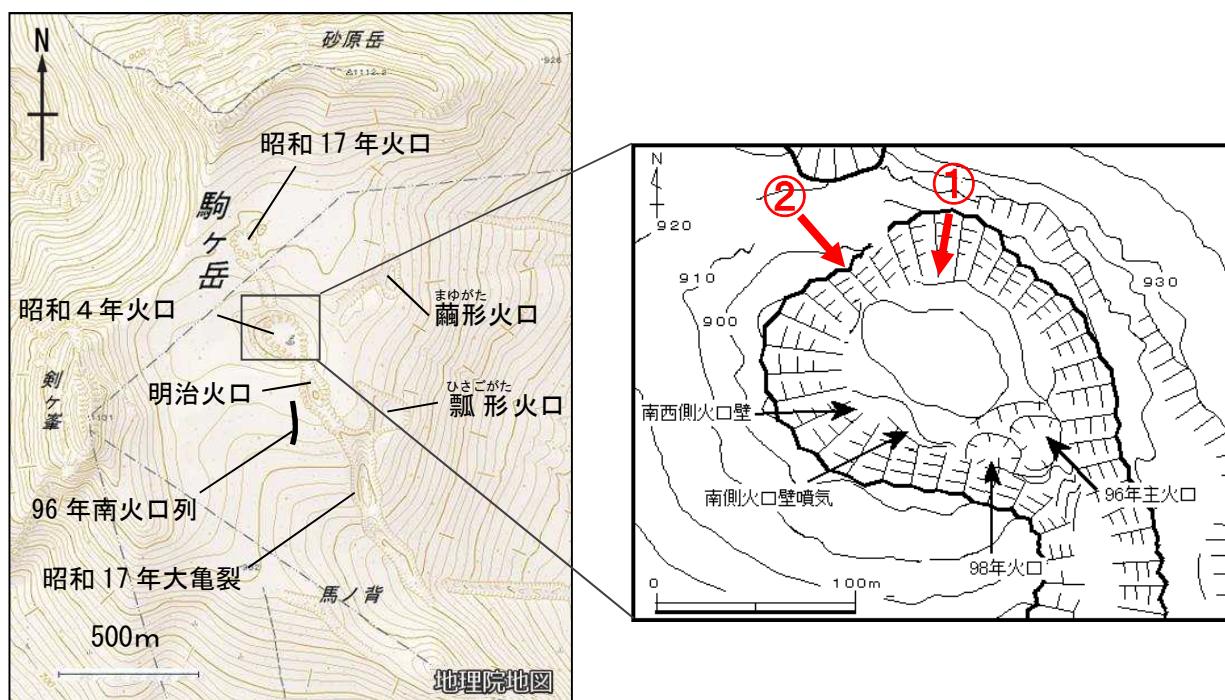


図3 北海道駒ヶ岳 火口周辺図及び写真の撮影方向（赤矢印）



図4 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口の状況

左：北西側上空（図3の①）から撮影

右：北側（図3の②）から撮影

- ・2020年10月27日に実施した現地調査同様、昭和4年火口内でごく弱い噴気（破線円内）が認められました。昭和4年火口の状況に特段の変化は認められませんでした。

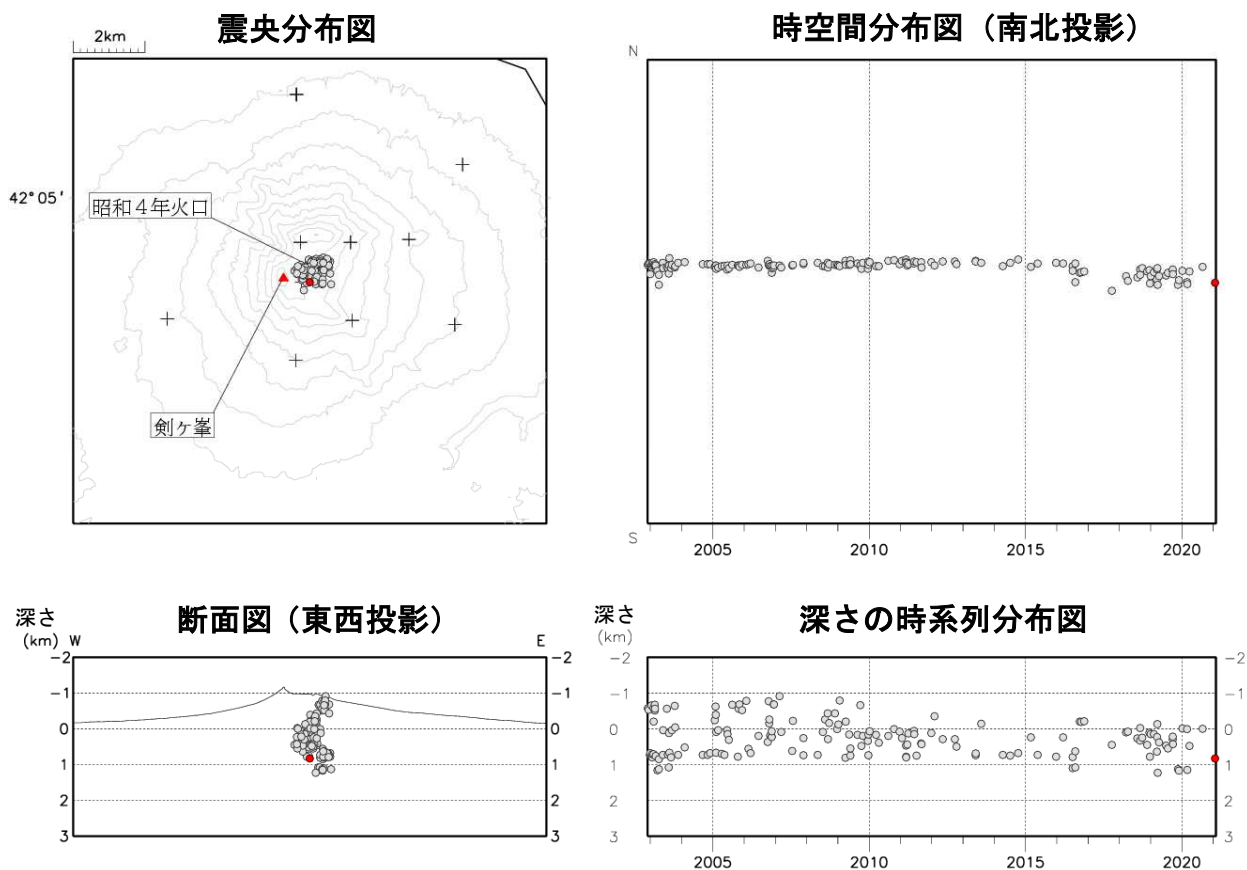


図5 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2002年12月～2021年1月）

- 印：2002年12月～2020年12月の震源
- 印：2021年1月の震源
- +印：地震観測点

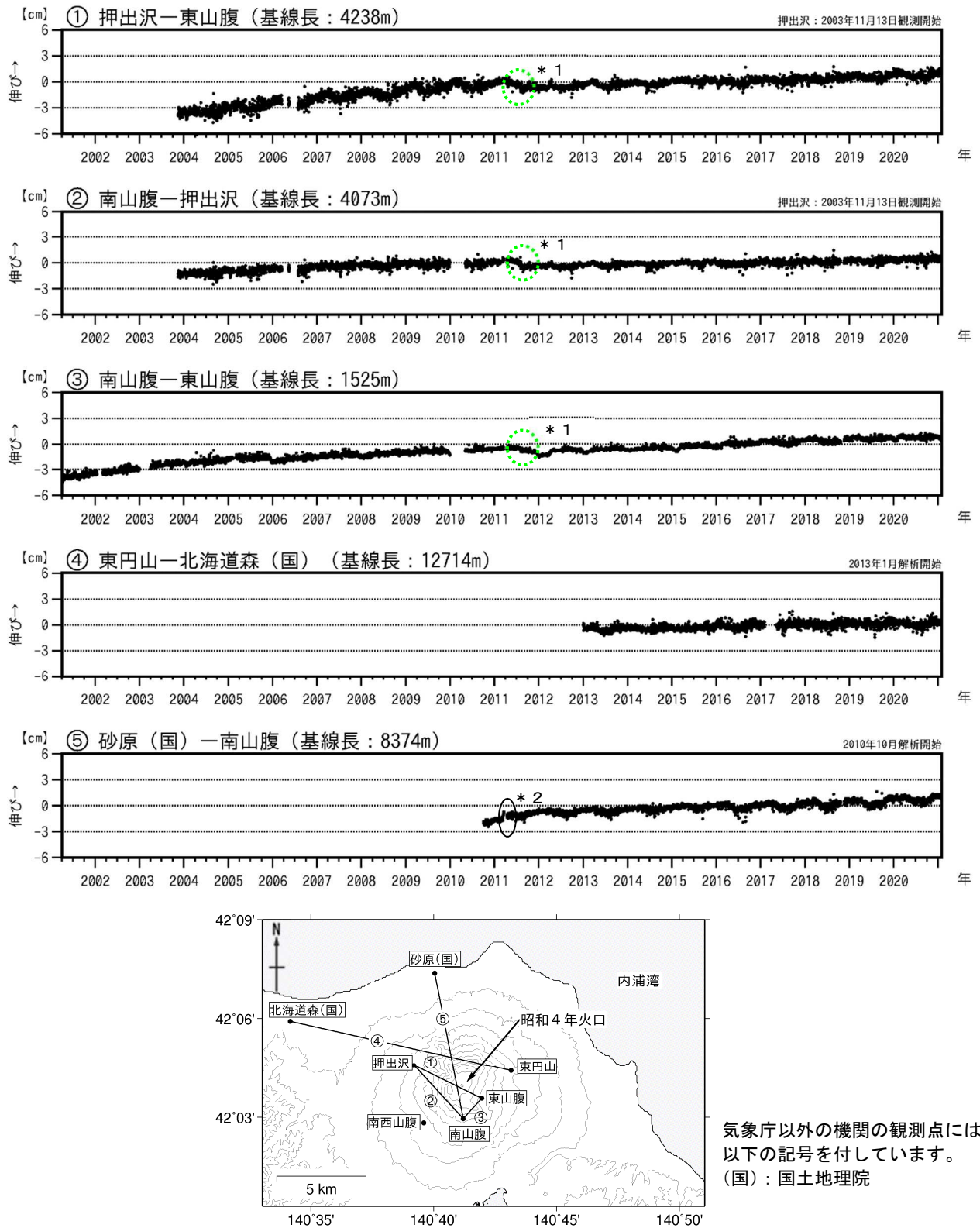


図6 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2021年1月）及び観測点配置図
 GNSS基線①～⑤は観測点配置図の①～⑤に対応しています。
 GNSS基線の空白部分は欠測を示します。
 ①～③の緑点線円内の変動（*1）は、機器更新によるものです。
 ⑤の黒点線円内の変動（*2）は、2011年3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の影響によるものです。
 2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています

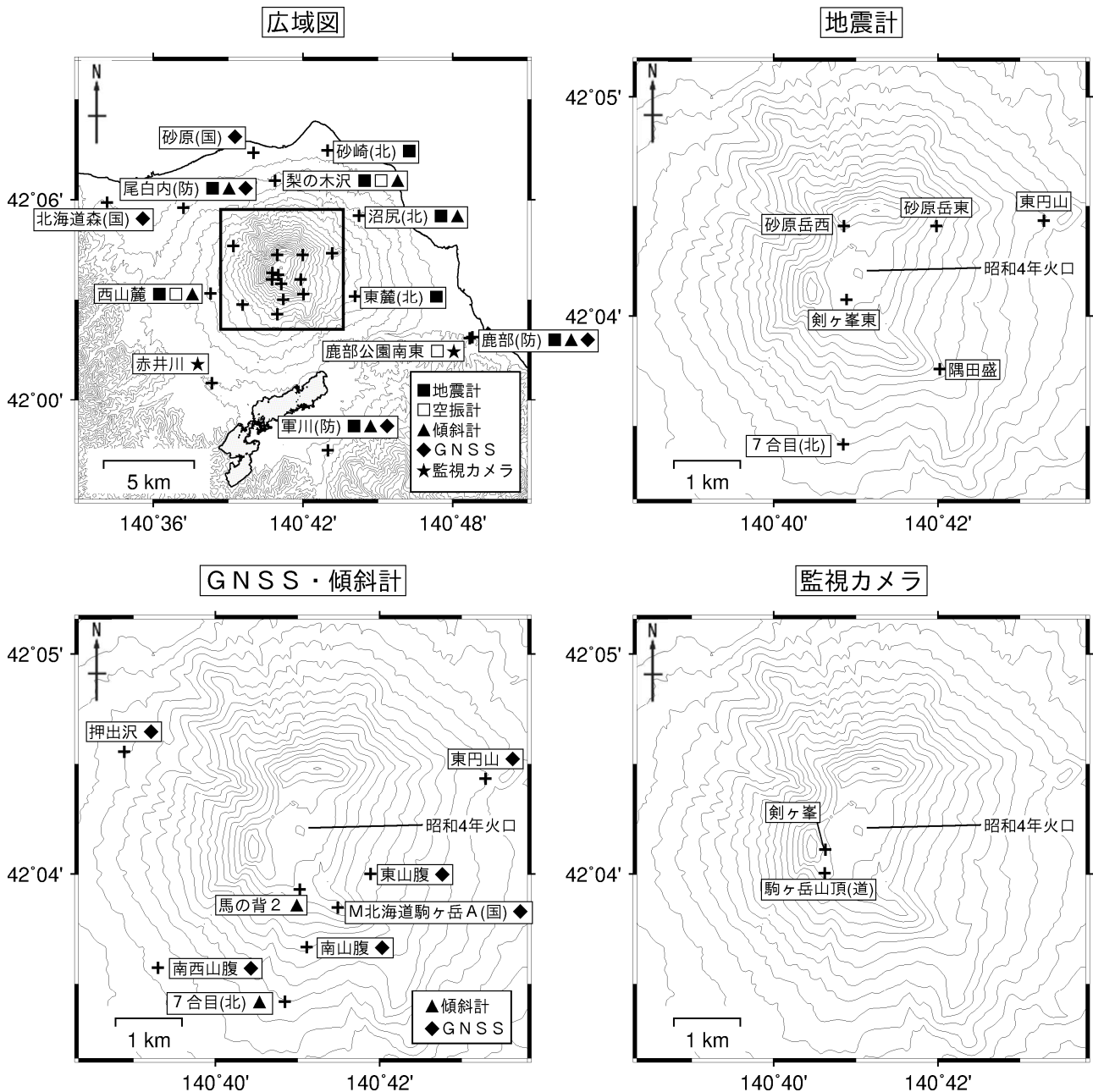


図7 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (国)：国土地理院
- (北)：北海道大学
- (防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道)：北海道